

第1回 瀬戸内島旅活性化研究会

議事概要

瀬戸内島旅活性化研究会が目指すこと

- ・ 地域社会の充実をベースとした持続可能な観光による地方創生、すなわち、観光に頼る地域活性化ではなく、地域の人々が活躍できる観光の場の創造をテーマとして、人々が生き生きと幸せに暮らすことができる島を実現することをゴールとする。

議論テーマⅠ：本島・広島における香川大学大学院地域マネジメント研究科による地域活性化提案

○人口減少・高齢化を踏まえた移住者の受け入れ

- ・ 志々島では人口が急激な減少傾向にあったが、近年はUターン者が増え、ゲストハウスや海上タクシーを営んでいる方もいる。笠岡諸島・本島とのツアー造成も検討している。単に移住者を増やすのではなく、若年層を中心に明確な目的を持った方を受け入れ、産業を生み出すことが必要。
- ・ 広島においても高齢化が進んでおり、若者の受け入れが課題となっている。学生発表にあったスペースマーケット等の提案も参考にしつつ、課題を克服しながら様々な開発を行っていくことが必要。
- ・ 本島においても人口が急速に減少している。本島には多くの歴史資産があるが、それらが観光に結びついていないことが課題。若い方を中心とした、島外の方からのアイデアや支援に期待している。今後より移住者が増えてくれば島の活性化にも繋がると考えている。
- ・ 香川県への移住者は増加傾向にあり、島民が活躍するためには、移住者の存在が重要だと考える。

議論テーマⅡ：今年度における香川大学大学院地域マネジメント研究科・本四高速共同研究の事業展開

(1) 特定のテーマに基づいた、魅力ある新たなコンテンツ・ツアー造成

○食のテーマについて

- ・ 本島で実施したFAMツアーでの食の提供では、オーセンティシティを維持しつつ新たなイノベーションを図る試みとして、フルーツやオリーブオイルを用いた押し抜き寿司や、デザート風アレンジしたあんもち雑煮等の商品開発を行った。インバウンドにも関心を持っていただいているため、今後より魅力度の高いものにしていきたい。
- ・ 地域住民においても、地域の魅力の再発見への関心が高まっており、地域の郷土料理

については特に可能性を感じる。

○歴史・文化のテーマについて

- ・ 下津井地区は、街並み保存地区として昔ながらの港町の風景を有しており、北前船の寄港地として日本遺産に登録されている。このような観光コンテンツが選択肢に入ると良い。

○ジオのテーマについて

- ・ 小豆島において、石文化やジオを通じた世界遺産、日本遺産認定への取組を行っているが、瀬戸内国際芸術祭と差別化できるような島旅のテーマとして、本島・広島における海の文化とジオを組み合わせるといった方法が考えられる。
- ・ ジオのストーリーは興味深いが、単体で旅行者を呼び込むことは難しく、中山の棚田における農村歌舞伎や醤油といった、インバウンドの興味を引き付ける体験コンテンツの磨き上げをすれば商品としての魅力が向上すると考えられる。

○自然・環境のテーマについて

- ・ 瀬戸内海国立公園は日本初の国立公園指定地区であり、インバウンド向けのコンテンツとしてもポテンシャルが高い。
- ・ せっかく島でゆったりした体験をしてもそこで二酸化炭素排出が多いということであれば欧米豪の意識が高い層からマイナスイメージを持たれる可能性がある。離島でカーボンニュートラルをどう達成するかも研究が必要。

○周遊島旅、海洋文化のテーマについて

- ・ 周遊島旅ツアーは、海上タクシーを用いて島同士を東西方向に自由に移動できることが魅力である。
- ・ 島民との交流、海の文化の活用といった点において、よもぎもち作りやシーカヤック等は特に魅力を感じた。ツアーに関しては、島に移動すること自体が非日常体験となるため、遊覧船等を用いて食を楽しむ企画には魅力がある。
- ・ 現状の定期旅客船航路は、本土から島への南北移動の手段が中心だが、海上タクシーなどを用いて島同士を東西に移動できるツアーは画期的。今後旅行代理店が取り上げることで、安全性を周知しながら海上タクシーが発展できる仕組みづくりを期待している。また、ツアー行程の中で定期船もうまく活用できれば、離島航路の維持にも役立つと考えている。瀬戸大橋周辺には塩飽諸島をはじめとした歴史ある島々があり、明石海峡大橋やしまなみ海道周辺とは異なる魅力がある。島々や船上からの瀬戸大橋の側面の眺めの美しさを活かしたコンテンツ造成ができると良い。
- ・ 2020年に実施したFAMトリップでは、島旅周遊ツアーは、島を船で点々と回ること

ができるという点において独自性があり、海外エージェントから好評価を得ていた。

- ・ スナメリの鑑賞や、釣った魚をその場で食べるといった、海に関連したコンテンツが充実できると良い。

○アートのテーマについて

- ・ 島旅ツアーのコンテンツは、自然景観や歴史文化に加え、食文化も充実しており素晴らしい。また、アートという観点からも魅力的な地域であるため、アートの切り口でのプロモーションについても引き続き検討できると良い。

○ナイトコンテンツについて

- ・ 瀬戸大橋周辺には、民宿やキャンプ場を有する六口島や、アートの魅力を有する松島等の島がある。ライトアップクルージングをはじめとして、夕陽や工場夜景、海ほたる等、夜型観光のコンテンツについても注力できると良い。

○ウェルネスツーリズムについて

- ・ コロナ禍で、外出規制がかかりセルフメンテナンス意識が上がり、外で活動できる環境に満足度が高いことが改めて認識された。アフターコロナでは、ウェルネスツーリズムに注目すべき。ウェルネスは身体的な健康以外に精神や社会、環境といった指標も含み、それらを満たすコンテンツ造成が重要。コロナ禍におけるニーズの変化と想定するターゲットや各コンテンツの魅力の横断化を図ると良い。

○アドベンチャーツーリズムについて

- ・ 世界的にアドベンチャーツーリズムがトレンドであり、2021年には北海道で世界大会が開催される。島旅のコンテンツはアドベンチャーツーリズムと親和性があるため、アフターコロナにおけるインバウンドへの訴求方法として適している。

○テーマ性・ストーリー性の高いコンテンツ全般について

- ・ コンテンツに多様性を持たせることは重要だが、テーマを絞った、尖ったコンテンツもポイントとなる。地元の資源を活用した唯一無二の魅力を持つコンテンツは、島内における観光消費額の増加にも繋がる。
- ・ 旅行者が家に持ち帰って語れるようなストーリーを意識しながらツアー造成することが重要。
- ・ インバウンドは瀬戸内地域の島々への観光に関心があり、ゴールデンルートにおける観光が多い中で、そのストーリーに瀬戸内地域での観光をいかに組み込み、体験して

もらえるかが重要。

(2) ターゲットの明確化、プロモーションの推進

○ターゲットの明確化について

- ・ ジオや食の歴史に興味関心のあるターゲット層を明確にすることが重要。

○プロモーションの推進について

- ・ 粟島は、海洋資源や島の歴史に加え、芸術の島、船乗りの島として島民にオープンな雰囲気があるところが一番の魅力であり、今後島の魅力を積極的に発信していきたい。粟島では 10 名～40 名程度の受け入れ可能な宿泊施設があり、粟島を拠点として瀬戸内の島々を繋げられるよう貢献したい。
- ・ 島民や地域の活躍者等、人の魅力をどのようなプラットフォームで発信するかが課題。
- ・ 情報発信については、香川大学地域マネジメント研究科の学生や他の諸機関との連携により、適切な手法を検討できると良い。
- ・ 観光地域としてのブランディングにあたっては、その地域の人々に着目したプロモーションができると良い。

(3) 地域住民を主体とした観光の推進

○地域住民の満足度の向上、活躍の場の提供について

- ・ 瀬戸内島旅活性化研究会の目指すゴールは、島民が生き生きと幸せに暮らせる島を実現することであり、観光はその手段の一つ。旅行者の満足度だけでなく、島民の方々の意欲があるコンテンツの磨き上げをすべき。
- ・ 観光庁の「明日の日本を支える観光ビジョン」、環境省の「国立公園満喫プロジェクト」では、国立公園を通じた自然ツアーを通じた地域活性化を重視している。経済活性化に加え、地域住民の活動も活性化され、自然環境が持続的に守られることを期待する。
- ・ 地域に寄り添って取組を進めていく方向性については多くの方から支持が得られた。地域住民が輝けることをキーワードとし、地域と人に焦点を当てて価値を創造していく必要がある。

○地域住民との意見交換、観光への理解促進について

- ・ 地域住民の生き生きとした幸せな暮らしの実現を踏まえると、観光が急激に発展することで地域に負の影響を与えることも考えられる。今回の事業を地域住民に丁寧に説明しながら、目指す方向性を共有することが重要。
- ・ 旅行者の増加に難色を示す地域住民もいるため、十分な意見交換の上、島民全員で観

光のあり方を共有できるような体制が必要。

○地域住民によるガイド育成について

- ・ 課題としてはガイド育成の必要性が挙げられ、言語だけでなくコンシェルジュのように旅行者を快適に楽しませることができるといえるスペシャリストの存在が重要となるため、島民との連携ができると良い。

(4) 多様な主体の連携促進

- ・ こういった取組は、島内の調整を図るために、当初から行政等と十分な調整の上でメンバーが島内に入っていくことができると良い。
- ・ 瀬戸内島旅活性化研究会という、様々な立場の方々が議論できる場があることに価値があるため、丁寧なコミュニケーションをとりながら、実現性の高い取組を進めていきたい。
- ・ 塩飽諸島では文化財や歴史のコンテンツが特に重要だが、文化財の利活用にあたっては、地域住民の理解、文化財保護、産業的な発展といった様々な観点が必要であり、一企業の取組では解決しない。様々な主体が参加する島旅研究会という座組を利用しながら、文化財利活用を促進できると良い。綿密な情報交換を今後していくためにも、オンラインツール等を用いたグループワークが今後活発にできると良い。

(5) 今後の事業展開

- ・ 来年度の瀬戸内国際芸術祭に向け、与島の遊覧船による校外学習教育プログラムについては、今後香川県の教員の理解を得ながら、短期的な視野でパイロット事業化を考えていきたい。また、与島における瀬戸大橋塔頂体験についても、多島美を俯瞰してストーリー性がある与島発の新しい島旅スタイルを提案していく。アートという切り口では、アート作品と自然の造形美をテーマとして組み合わせたFAMトリップも予定している。
- ・

(5) まとめ

- ・ 今年度の研究事業では、地域社会の活性化をベースとした、持続可能な観光による地方創生を目的に取組を実施する。食文化や歴史資源体験コンテンツについては、大阪万博開催も見据えながら、今後3か年計画で取り組んでいく。
- ・ 来年度の瀬戸内国際芸術祭に向け、与島の遊覧船による校外学習教育プログラムについては、今後香川県の教員の理解を得ながら、短期的な視野でパイロット事業化を考えていきたい。また、与島における瀬戸大橋塔頂体験についても、多島美を俯瞰してストーリー性がある与島発の新しい島旅スタイルを提案していく。アートという切り口では、アート作品と自然の造形美をテーマとして組み合わせたFAMトリップも予

定している。

以上